様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2018
課題番号：２６４６３４８６

研究課題名（和文）地域包括ケアシステムにおける訪問看護師が取り組む連携モデルの開発と適応

研究課題名（英文）Development and adaptation of the cooperation model that community-based integrated care system in visiting nurse

研究代表者
谷垣　静子（TANIGAKI, Shizuko）

岡山大学・保健学研究科・教授

研究者番号：８０２６３１４３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域包括ケアシステムにおける訪問看護師が取り組んでいるインテグレーションレベルの連携要素を明らかにし、連携モデルの開発に取り組むことを主眼においた。そこで、在宅療養支援のために看護師が行った連携要素を明らかにすることを目的に研究に取り組んだ。その結果、【意思決定を中心に据える】【本人・家族の代弁者となる】【状況を予測してチームを編成する】【直に会って話す】【人となりを知りアプローチを探る】の要素を抽出した。これらの要素をもとに連携モデルの開発に取り組んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義
2025年問題といわれる超高齢社会を数年後に迎えるにあたり、社会保障の面から様々な課題克服に向けた取り組みが急務である。すべての人々が安心・安全の環境の中で、自分らしい暮らしが送れ、死に逝くことが可能な地域ケアの創造に、看護職として取り組むべき内容が見えた。この連携モデルの開発によって、質の高い看護実践と連携・協働の取り組みが、医療の質の向上と経営改善につながる可能性があると考えられる。モデル開発の適応に関しては、今後、検証していく予定である。

研究成果の概要（英文）：This study was performed with the aim of clarifying the key factors among cooperating skilled nurses in supporting home care. As the study method, we qualitatively analyzed the data of a focus group interview performed with 6 skilled home-care nurses. As a result, we defined the following 5 parameters, “basing decision-making on the majority opinion,” “representing the needs and wishes of the patient/patient’s family,” “organizing a team based on predicted situations,” “meeting and talking with the patient face to face,” and “finding out an appropriate approach after understanding the patient’s needs and personality.” It was determined that nurses consider the future life of a patient and his/her family needs based on the wishes of the patient about home care, organize a team that would plan for the future needs, and establish a collaboration with team members.

研究分野：在宅看護

キーワード：訪問看護師　連携

１．研究開始当初の背景

本研究の問題意識は、地域包括ケアシステムが名ばかりではなく、真に各機関・職種が目的を共有しサービス提供体制の構築が図る必要があるのではないかというものであった。連携レベルもインテグレーション（統合）レベルの水準に引き上げる必要があると考え、研究に着手した。私たちが研究の対象としたのは、医療ニーズと介護ニーズを併せもつ重度療養者支援の重要な役割を担う「訪問看護職」であった。近年、連携の重要性について研究が進んでいる。しかし、連携のアウトカム評価指標については、病院から地域に繋げる看護支援を対象としたものが散見される程度で、地域における連携モデルは示されていなかった。

２．研究の目的

本研究の目的は、インテグレーションレベルの連携を阻害している要因を明らかにし、ケア推進のためのインテグレーション連携モデル（以下、I-連携モデル）を開発することである。

３．研究の方法

（１）　連携阻害要因の分析：一部非参加観察法を用いた

「連携」に関する文献渉猟を国内、国外と行い、分析を行った。

（２）　質的記述的研究

対象は、臨床経験豊富な専門看護師および熟練看護師とした。ベナーは中堅レベルを 3～5 年ほどケアをした看護師としている。今回は 5 年以上の看護実践のある看護師とした。データ収集は、インタビューガイドを用いてフォーカス・グループ・インタビューを用いた。インタビュー前には、研究参加者各自で、在宅療養支援における多職種連携を行った事例を思い起こしてもらい、簡潔に事例シートにまとめてもらった。インタビュー内容は、連携内容および誰とチームを組んだのか、チームメンバーの連携はうまくいったのか、連携がうまくいった理由は何だったのかであった。インタビューは、研究参加者の許可を得て録音をし、逐語録を作成した。

インタビュー調査にあたり、所属機関の倫理審査委員会に研究計画書を提出し、承認を得たうえで実施した。

（３）　I-連携モデルの開発

４．研究の成果

熟練看護師 6 名のインタビューを行った。その結果、在宅療養支援における連携の要素は、【意思決定を中心に据える】【本人･家族の代弁者となる】【状況を予測してチームを編成する】【直に会って話す】【人となりを知りアプローチを探る】であった。

この結果から、I-連携モデルの要素を検討した。

連携の出発点は【意思決定を中心に据える】ということではないかと考える。療養支援においては、病いや障がいをもちながら、今後どのように過ごしたいのか、どのような願いや希望があるのか、まずは、そのような【意思決定を中心に据える】プロセスが重要と考えられる。

療養者の思いをつなげる支援において【本人・家族の代弁者となる】ことを重視する必要があ

る。また、療養者の意思をつなぐ連携先の選定において、看護師は、他の機関や職種の役割や能力を見極めた上、【状況を予測してチームを編成する】ことが求められる。さらに、連携の促進には、【直に会って話す】【人となりを知りアプローチを探る】行動が大切である。連携には、顔の見える関係が重要と言われている。顔の見える関係は、「顔見知りを通り超えて信頼できる関係」から連携がしやすくなると報告されている。顔が見えることによってチームアプローチ機能が円滑に回るということだと考える。連携を報告だけで終わらせるのではなく、ケア継続を考えた場合、具体的な方法までこと細かく知る必要がある場合、直接会って聞くことが一番である。そのような行為をすることは、効率が悪いと思われがちだが、より良い看護継続には、必要不可欠であると考える。また、チーム内の相手の状況に合わせアプローチを探り、対応を変更していくこともスムーズな連携には不可欠である。

上記の連携要素をもとに I-連携モデルを開発した。現在、訪問看護師の研修において I-連携モデルを用いて、モデルの実施検証を行っている。モデルの適応を図るには時間を要するが、研修の場では、具体的な事例をもとに、看護師としてどのように働きかけるかという討議をしている。その中で、看護活動のリフレクションを行い、次につなげられる具体的な行動を I-連携モデルから導き出している。今後は、連携要素を活動指針としてツール化あるいは、プログラム化できるよう、研究に取り組んで行く予定である。

５．主な発表論文等

［雑誌論文］

① 内田史江、谷垣静子、在宅療養がん患者のターミナル期における訪問看護支援に影響を及ぼす要因の検討、日本看護科学学会誌、査読有、38、2018、124-132
Dio　https://doi.org/10.5630/jans.38.124

② 内田史江、谷垣静子、訪問看護師による在宅療養がん患者の折り合いを支える看護支援、日本看護研究学会雑誌、査読有、40(1)、2017、35-4

③ 谷垣静子、乗越千枝、長江弘子、仁科祐子、岡田麻里、訪問看護師が働き続けられる職場環境要因の検討、厚生の指標、査読有、64(7)、2017、14-20

④ 谷垣静子、乗越千枝、長江弘子、岡田麻里、仁科祐子、グネット訪問看護ステーション管理者の組織育成、日本プライマリ・ケア連合学会誌、査読有、39(2)、2016、111-115

⑤ 仁科祐子、谷垣静子、訪問看護における職場継続意志の関連要因、日本在宅ケア学会誌、査読有、18(2)、2015、28-36

［学会発表］

① 長江弘子，谷垣静子，酒井昌子， 片山陽子， 岡田麻里，乗越千枝，川添恵理子，照井レナ、生活と医療を統合する継続看護マネジメント、第 23 回日本在宅ケア学会学術集会、2018

② 谷垣静子、長江弘子、乗越千枝、仁科祐子、療養移行期に熟練看護師が行った連携、第 22 回日本在宅ケア学会学術集会、2017

③ 内田史江、谷垣静子、訪問看護師における在宅看護の質に影響を及ぼすがん患者へのターミナル支援、第 37 回日本看護科学学会学術集会、2017

［図書］

① 長江弘子編集　谷垣静子、医歯薬出版株式会社、継続看護マネジメント第2版、2018、総頁116

② 日本在宅ケア学会編、谷垣静子、株式会社ワールドプラニング、在宅ケア学　第6巻　エンド・オブ・ライフと在宅ケア：グループホーム、小規模多機能など多様な「自宅」での看取りを実現する重要性と実例-自宅ではないもうひとつの「家」での看取りから-　、2015、167-172

６．研究組織

（１）　研究分担者

研究分担者：長江 弘子

ローマ字氏名：NAGAE, Hiroko

所属研究県機関：東京女子医科大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：10265770

研究分担者：乗越 千枝

ローマ字氏名：NORIKOSHI, Chie

所属研究県機関：梅花女子大学

部局名：看護保健学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：70389500

研究分担者：仁科 祐子

ローマ字氏名：NISINA, Yuko

所属研究県機関：鳥取大学

部局名：医学部

職名：講師

研究者番号（8桁）：70362879

研究分担者：岸田 研作

ローマ字氏名：KISHIDA, Kensaku

所属研究県機関：岡山大学

部局名：社会文化科学研究科

職名：教授

研究者番号（8桁）：30346407